

令和 7 年度第 2 回浜松市スポーツ推進審議会会議録

- 1 開催日時 令和 7 年 10 月 8 日（水） 午後 2 時から午後 3 時まで
- 2 開催場所 浜松市役所本館 8 階 802 会議室
- 3 出席状況
- | | |
|------|--------------------------|
| 出席委員 | 太田正義（常葉大学 准教授） |
| | 藤田晴康（（公財）浜松市スポーツ協会 常務理事） |
| | 高橋勇二（（一社）浜松市医師会 理事） |
| | 伊藤裕子（（一社）ぺんぎん村水泳教室 代表） |
| | 宮崎正（浜松市立高等学校 校長） |
| | 影山ちか（浜松市中学校体育連盟 会長） |
| | 中村竜久（浜松市小学校体育連合 会長） |
| | 恩田かおり（浜松市幼稚園長会 会長） |
| 事務局 | 杉田実良 スポーツ振興担当部長 |
| | 栗田豪 スポーツ振興課長 |
| | 松本淳一 スポーツ振興課課長補佐 |
| | 小柳卓也 スポーツ振興課戦略グループ長 |
| | 鈴木一隆 スポーツ振興課施設グループ長 |
| | 大東たかし スポーツ振興課コミッショングループ長 |
- 4 傍聴者 0 人
- 5 議 事 大規模スポーツイベント等に関するスポーツ振興補助金について
部活動地域展開に伴うスポーツ少年団等への補助金について
- 6 発言内容記録方法 文字 / 録画 / 録音
- 7 発 言 内 容

<開会>

1 会長・新任委員挨拶

2 議 事

- ・大規模スポーツイベント等に関するスポーツ振興補助金について
- ・部活動地域展開に伴うスポーツ少年団等への補助金について

(太田会長)

議事について、事務局から説明願う。

(小柳戦略グループ長、大東コミッショングループ長)

説明

(藤田委員)

大規模スポーツイベント等に関する補助額条件の中に、「障がいのある人や外国人等」とあるが、「障がいのある人または外国人等」の方がわかりやすいのではないか。

(大東コミッショングループ長)

ご指摘踏まえ文言の修正を検討する。

(太田会長)

大規模スポーツイベント等に関する補助額加算条件の中に、「外国人等」とあるがどういったところを想定しているか。

(大東コミッショングループ長)

例えば LGBTQ など、少数者を想定している。

(太田会長)

幅広くマイノリティが含まれている認識であることを理解した。

(伊藤委員)

大規模スポーツイベント等に関する補助額加算条件の中に、障がいのある人や外国人等の割合が 10%以上を占めることとなっているが、どのタイミングで判断していくのか。

(大東コミッショングループ長)

現行の次世代スポーツ競技者育成事業費補助金の市内居住者数要件と同じように、イベント前の交付決定の段階で、基準を満たさない場合は加算できなくなる旨を説明しておき、イベント後の実績報告の際に、何らかの方法で参加者の属性を確認した資料を添付してもらうような事務の流れになると思う。

(宮崎委員)

少年団へのアンケートについて、競技ごとの傾向があれば教えてほしい。

(小柳戦略グループ長)

今回のアンケートは無記名で実施したため、競技ごとの傾向はわからないが、スポーツ少年団の構成としては球技や空手などが多い傾向にある。

(太田会長)

現状で中学生を受け入れている団体の取り組みの事例等は把握しているのか。

(小柳戦略グループ長)

そこまでは把握していない。

(太田会長)

現状、中学生を受け入れて上手くいっている団体の聞き取りは行っているか。

(小柳戦略グループ長)

そこまで行っていない。

(太田会長)

事例を集めてもらい、どちらでもないと回答している団体へ情報提供することで今後、受け入れを検討するきっかけになると思われる。

(藤田委員)

各スポーツ少年団の実績報告によれば、昨年度よりも中学生の団員数は増えている。受け入れ体制については、「いいえ」が多い結果となっているが、補足説明はあるか。

(小柳戦略グループ長)

今後、中学生の受け入れが増えていくような施策を検討していきたい。

(杉田スポーツ振興担当部長)

スポーツ少年団の中で活動する中学生は増えていると思うが、団体としてみた場合、現状受け入れていない団体が相当数あるということだと思う。

(太田会長)

中学生を受け入れていく際の、課題の集積をした方が良いかもしれない。アンケートがあると議論のベースになるので引き続き、色々な角度から聞いてもらおうとよい。

(杉田スポーツ振興担当部長)

例えば身体が接触する競技では、小学生と中学生と一緒に練習するのは難しいなど、競技によって課題は異なると思う。

(影山委員)

年代によってコートของ広さ、ネットの高さが異なることから受け入れは難しいと聞いている。

(中村委員)

アンケートの結果からも指導者の確保が難しいとでているが、何か打ち出せる施策はあるのか。

(小柳戦略グループ長)

教育委員会側では指導者バンクの立ち上げを検討していると聞いている。

一方、スポーツ少年団への指導者支援も本審議会の意見を参考に支援策を検討したい。

(太田会長)

教育委員会の指導者バンクはどのような人を想定しているのか。

(小柳戦略グループ長)

指導者は学校の先生も担うことが可能であり、その他、地域で出来る方、各競技団体からなどから出てくることを想定している。

(影山委員)

教員は「はまクル」に入るか、別の地域クラブに入っていくのか迷っている所もある。

(杉田スポーツ振興担当部長)

指導者の問題は量と質の2つであるが、学校の先生が参加してくれば量・質とも満たせるが、過去のアンケートでは教員の地域クラブへの参加率は2割程度であった。

他方、生徒も5割の生徒が地域クラブに参加しないとの回答なので、そこをどう評価するか。質としては報酬等が問題になるが、これまで先生の人件費、学校の使用料等見えないコストであった所を可視化されていくのが地域展開であると考えている。その他、各個人が地域の中でスポーツを行っていくうえでの費用負担についても議論しており、スポーツする機会が経済的理由で失われないように生活困窮世帯の費用負担についても検討されている。

(太田会長)

指導者の質の話がでてくると議論が動かないと思われるが、安心安全な状況でなければ任せられないという見解か。

(杉田スポーツ振興担当部長)

地域展開は、文科省の方針に基づいて部活の延長線上にある位置付けであり、指導者の質も求めている状況。

(太田会長)

では、スポーツ審議会の中では何を議論しておくべきか。

(栗田スポーツ振興課長)

現スポーツ少年団が地域の受け皿になっていく必要があると考える。
どのような形で、後ろ支えとなる必要があるかの方法を議論していただきたい。

(太田会長)

となると、支援が必要と回答しているスポーツ少年団に対して、補助金・謝金のサービスを提供する準備はできているのか。

(栗田スポーツ振興課長)

行政の仕組み上全てを支援するのは難しいので、何から支援していくのが好ましいか、優先順位のご意見をいただきたい。

(高橋委員)

現状は教員の自己犠牲で成り立っている。部活を地域に展開するには、指導者への報酬、有資格者にはそれなりの報酬、メリハリのつけた指導者確保が優先されるべきだと思う。

(藤田委員)

各スポーツ少年団の実績報告によれば、2023年に391名だった指導者が2025年には285名まで減っている。団数の減少要因もあるが、結果から見ても指導者への謝金は有効な手段だと思う。

(伊藤委員)

指導者として考えられる年齢層はどのくらいかを求めているのか。若い世代か、ある程度現役、ベテランなのか。年代によって基準とする価値観が違い、若い世代は謝金を求め、高齢の方はやりがい求めている。

(栗田スポーツ振興課長)

特に指導者の年齢層はターゲットを絞っていない。スポーツ少年団でのやりがいは、市の広報等でお知らせし、報酬の補助も支援策を検討するが、年代を絞らない形での支援を検討していきたい。

(太田会長)

地域展開のこういった議論については、教員が過大な負担で担っていたものが可視化された結果だと思う。皆様のご意見を伺うと「指導者の支援」について重点的に検討していただきたいということだった。

少年団への補助については、今後も議論のベースとなる資料を用意していただきたい。

イベントの補助金については特に皆さん異論はないようなので、必要な文言修正を含め、進めていただきたい。

<閉会>